

報道関係者 各位

放送批評懇談会

**発表！2022年2月度ギャラクシー賞月間賞**

放送批評懇談会が日本の放送文化の質的な向上を願い、テレビ、ラジオの番組、関係者を顕彰する「ギャラクシー賞」。ことしで59年の歴史を誇ります。

ギャラクシー賞テレビ部門では、「ギャラクシー賞」活動の一環として、毎月、自主的に番組を推奨する「月間賞」を選定しております。今月の月間賞を別紙のとおり発表いたしますので、貴媒体でお取り扱いのほどお願い申し上げます。

ギャラクシー賞テレビ部門は、この日常視聴に基づく「月間賞」と、各社からの応募作品を併せて審査を重ね、毎年の受賞作を決定いたします。2022年6月初旬開催予定の贈賞式にて、大賞をはじめとする各賞が決定、表彰されます。

今後の選考にもご注目いただければ幸いです。

●放送批評懇談会について：1963年の発足以来、評論家、ジャーナリスト、マスコミ研究者などを会員に、各種の活動を展開しております。「GALAC（ぎやらく）」の編集・発行、優れた番組・CMを顕彰する「ギャラクシー賞」の選考・運営、メディア界の動きを解説するセミナーやシンポジウムの開催などを行なっています。

●過去の受賞作をお探しの場合は「ギャラクシー賞データベース（<https://houkon.jp/galaxy-database/>）」をご活用ください（掲載内容：作品名、放送局・制作社名、制作者、出演者、受賞理由など）。

**放送批評懇談会**

ASSOCIATION OF BROADCAST CRITICS



&lt;お問い合わせ先&gt;

NPO法人 放送批評懇談会／担当：福島  
〒160-0022 新宿区新宿 5-10-14 中村ビル 2F  
Tel：03-5379-5521 Fax：03-5379-5510  
kondankai@houkon.jp <https://www.houkon.jp/>

放送批評懇談会



2022年2月度ギャラクシー賞月間賞

**ヒヤダ×体育のワンルーム☆ミュージック「魔法の機材パッドで曲作り×STUTS」**

2月2日放送 22:00~22:25 日本放送協会 NHKエンタープライズ VIVIA

「パッド」という機材を使うミュージシャン・STUTSの作曲法がとても興味深く、音楽の新時代が到来していることを実感した。MCのヒヤダインと岡崎体育の解説もわかりやすい。そして3人がオリジナル曲をその場で作ってコラボするシーンは、リラックスした楽しさに溢れていた。この番組のエッセンスが詰まったような回。

**ザ・ノンフィクション「おせっかい男とワケありな人々・あなたのお家探します」**

2月6日放送 14:00~14:55 フジテレビジョン ラダック

「誰かのために」という言葉ではなく「おせっかい」。できるから、やりたいからする不動産屋さんの行動で、おせっかいの強さ・パワー・面白さが伝わる。本当に世界を救う真の意味での利他的行動とはこうあるべきだということがよくわかる。その社会的意味まで明らかにしてくれた作品。

**ETV特集「ぼくは しんだ じぶんで しんだ 谷川俊太郎と死の絵本」**

2月12日放送 23:00~24:00 日本放送協会 ドキュメンタリージャパン NHKエデュケーショナル

「子どもの自死」をテーマに描いた絵本の制作過程を追う。90歳になった詩人谷川俊太郎の文章に絵を添えるのは合田里美。自死の理由を「わかったつもり」になることを徹底的に拒否し続ける谷川は約2年間にわたり合田との対話を繰り返す。その考え続ける姿に胸を打たれた。

**クローズアップ現代+「『ト一横キッズ』～居場所なき子どもたちの声～」**

2月22日放送 22:00~22:30 日本放送協会

新宿・歌舞伎町の旧コマ劇場横の広場は“ト一横”と呼ばれ、夜昼となく10代前半の子どもたちが集まる。“ト一横キッズ”だ。多くは家庭での虐待、学校でのいじめなどの悩みを抱えて居場所を失った子どもたち。取材班は未成年者を相手にした難しい取材を4カ月続けて彼らの心の内に迫り、子どもたちの支援に何が必要なのかを探った。

★詳細は月刊誌「GALAC」2022年5月号に掲載します